3年間を見通した平成22年度以降の入学生の全体的な指導計画 (例1)

この指導計画例は年間指導時数を87時間(ガイダンス指導の3時間を含む)で配当し、5つのパターン(例1から例5)で構成しています。それぞれの例の特徴を参考にして、各学校の実情等に応じて作成してください。なお、この指導計画例は、鹿児島市立吉田南中学校竹下教諭との共同作成です。

学 年	時間		4 1 2		3	5	l 5	6		6	8	9	10	7 11 14	2 1	13 1	9		16	17	10	0 19	20	21	1	2 23	24	12	2 26	2.	1 7 28	29	30	2	22	33	3 34 3
			<u></u>			<u>年</u> 生物	·		<u>/</u> 関す		<u> </u>	<u> </u>		<u></u> った栽		13 1	14	10	10	17	10	13	20	<u> </u>		2 23	<u> 24</u>	1 2	<u>) 20</u>	1 2	<i>1</i> 20	機器		組み	32	33	34 3
1	題材	7.	ゴイダ	ン		ディ	ィジ	タル	作品	品の	設計	• 朱	刂作											杉	材料。	と加コ		関す	る技	術を	を利用	した	製作	■品の	設計	• \$	操作
年	指導内容	A	A (1)		С	(1)	ア	• 1	1 ((2)	ア									Α	(2)	ア	・ イ	(3	3)ア	• -	/ •	ウ								
	164614	ブ	ア・イ			D	(1)	ア	(2	2)	ア・	イ									В	(1)	ア	・ イ	•												
2				料と加工に関する技術を利用した製作 の設計・製作						作	青報通	.信	ネッ	ト 5	フーク	と作	青報 [.]	モラ	ル				ネル					みと(る技術			した製	火作品	る	役計・負			
年	指導内容	4	A (2)ウ(3)ア・イ・ウ				ı	D (1) イ・ウ									В	(1)	ア	• 1	′ (2) -	ア・イ	ſ													
3	題材		エネルギー変換に関する技術を利用 プレた製作品の設計・製作					プロ・	プログラムによる計測・制御																												
年	指導内容	B (1) ウ (2) ア・イ D (1) :					1) ፲	: (3)	ア	・イ																										

Α	材料と加工	29
В	エネルギー変換	25
С	生物育成	10
D	情報	23
	計	87

	生物育成やエネルキー変換においては,埋枓の関連内容の履修時期とほほ同じ時期で指導できる。
	材料と加工を2題材制で取り扱い、1年時、2年時それぞれ基礎題材と応用題材を取り扱う。
Ō	機器のしくみと保守点検については、材料と加工の中で工作機械の取扱いで触れる。

- △ 1年時に全内容が入ってしまうため、学習内容がやや拡散する傾向にある。
- △ 内容が1・2年及び2・3年でまたがっているため、意欲を継続させながら指導するのは難しい。
- △ 1年で情報モラルを取り扱わない。

特徴

3年間を見通した平成22年度以降の入学生の全体的な指導計画(例2)

学	月		4		5			6	6		7		9			10		11	12	1	2		3
年	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 11	12	13 14 15	16	17	18 19 20	21	22 23	24 25 26	27 28 29	30 31	32	33 34 35
1	題材	ガ	イダン	ノス	情報	通信	ネッ	ノトワ	フーク	と作	青報モラル	レ		木	才料と	と加工に関す	る技	術を利用	機器の仕組み と保守点検 用した製作品	 の設計・製作	Ī.		育成に関す 術を利用し 培
年		Δ	(1)										A (2) 7 ·	1	(3)	ア・イ・ウ						C (1) ア
	指導内容	ア	· イ´		D ((1)	ア・	1	・ウ			-	В (1) ア・	1									2) ア
		材料	料と加.	エに関	する	技術な	を利用	目した	製作品	の訝	計・製作				- =n =	- 1 4-111		エネルコ	ギー変換のし	くみと保守点	i検		
2	題材	生	物育原	勿育成に関する技術を利用した栽培					ティジタル作	ディジタル作品の設計・制作 エネルギー変換に関する技術を利用した								品の設	計・製作				
年	化消击点		(2) ウ(3) ア・イ・ウ (1) ア・イC(2)				D (1) 7 (0) 7 (B (1) ア・イ (2) ア・イ											
	指導内容						D (1) ア (2) ア・イ				В (Т)	7 1 (2)										
3	題材		エネルギー変換に関する技術を利用 した製作品の設計・製作			ムに	こよる計測・制	刮御															
年	指導内容	B容 B (1) ウ (2) ア・イ D (1) エ ((3) ア・イ																		

Α	材料と加工	27. 5
В	エネルギー変換	24. 5
С	生物育成	9
D	情報	26
	計	87

4+ Abt	000	1年時の夏季休業削に情報モブルを含めたハソコンの利用について学習できる。 材料と加工の学習で、生物育成につながる題材を選択することで栽培との連結がスムーズである。 ディジタル作品は、材料と加工での作品や栽培記録等を取り扱うことで、指導に流れができる。
特徴	Δ Δ Δ	1年時に全内容が入ってしまうため,学習内容がやや拡散する傾向にある。 内容が1・2年及び2・3年でまたがっているため,意欲を継続させながら指導するのは難しい。 材料と加工,エネルギー変換で発達段階に応じた適切な題材の選定が必要となる。

3年間を見通した平成22年度以降の入学生の全体的な指導計画 (例3)

学	月		4		5			6			7			9			10			11	12			1		2		3
年	時間		1 2	3	4	5	6	7	8	9	10 11	12	13	14 15	16	17	18 19	20	21	22 23	24 25	26	27 2	28 29	30	31 32	2 33 3	34 35
1	題材	7	ガイダ :	ンス	情報通 ワーク ル	信ネッ と情報	ト	材料	と加	工法	<u> </u>	材料	と加	エに関 [.]	する	技術る	を利用し	した製	以作品	の設計	・製作							
年	指導内容		A (1) ア・イ		D	(1)	ウ	Α (2)	ア・	1	Α ((2)	ウ(3)	ア	・イ	・ゥ											
2	題材		エネルギー変換のしくみと保守 エネル 気検 計・製							変換に	こ関す	る技術	を利	用し	た製作	品の言	设 多	C ネルギー を換のしく ひと保守点 食	生物の生 育環境と 育成技術	生物培又	育成(は飼 ^っ	に関す 育	る技術	ドを利 力	用したま	生物の 生育環 境と育 成技術		
年	指導内容	В	3(1)ア・イ E				B (2) ア・イ								B (1) ウ	C (1) ア	C 2	(ア))				C (1) 1					
3	題材	٦.	情報通信ネット ディジタル作品の設 プロークと情報モ 計・制作 る言				プログ [:] る計測	ラムに ・制御	こよ	情報通信 ネットワー ウと情報モ ラル	評価用	活																
年	指導内容	: [) (1)	ア	・イ	D ((2)	ア・	1		D (3)	ア・	ィー	D (1) ウ	A(2) F B(1) F C(1) A D(1) E	ー う う イ ェ												

Α	材料と加工	32. 5
В	エネルギー変換	23. 5
С	生物育成	12. 5
D	情報	18. 5
	計	87

П	\cap	1 年の品	初の段階で	唐報エラル を	一会めた」	パソコンの利	用について学	習でき	· Z
ı	\circ	一十の取		I月+以 L ノノレて	. 🗀 ७७//~/	・ノコンの利	川に りいて子	. u C C	~ ∘

□○ 材料と加工の学習を分断せず実施できる。

特徴

- O 2年のエネルギー変換の製作はロボコン題材を取り扱うことでロボコン大会にも対応できる。
- ■△ 生物育成やエネルギー変換においては、理科などの関連内容の履修時期とずれてしまう。
- △ 生物育成が冬期に履修するため、選択できる植物等が限られてしまう。△ 4つの内容を順番に履修する形となり、指導に流れをつくるのが難しい面がある。

3年間を見通した平成22年度以降の入学生の全体的な指導計画 (例4)

学 年	月	4	5		6	7	9	10		11	12	1	2	3			
#	時間	1 2 3	4 5	6 7	8 9	10 11 12	13 14 15 16	17 18 19	20 21	22 23	24 25 26	27 28 29	30 31 3	2 33 34 35			
1	題材	ガイダンス	情報通信ネンクと情報モ	·ットワー :ラル	材料とか	ロエに関する	技術を利用した製	作品の設計・	製作					生物の生育 環境と育成 技術			
年	指導内容	A (1) ア・イ	D (1)	ア・ウ	A (2)	ア・イ・ウ	(3) ア・イ・ウ							C (1) 7			
	日本 土土	ディジタル	作品の設	計・制作	I			- 4 1 lit +0 -	. –	エネルキ	デー変換のしく	みと保守点検					
2	題材	生物育成に	関する技	術を利用	した栽培	<u> </u>	情報通信ネットワ	ノークと情報†	:フル		一変換に関す)設計・製作			
年	指導内容		つ(2)ア・イ				 -D (1) ア・イ・	.		B (1) ア・イ (2) ア・イ							
	11年17日	C (1) ア・イ (2) ア								B (1)	7 1 (2	<i>,</i> , ,					
3	題材	エネルギー変換に関する技術を利用 プログラ した製作品の設計・製作				プログラムロ	こよる計測・制御										
年	指導内容	P容 B (1) ウ (2) ア・イ D (1) エ			(3) ア・イ												

Α	材料と加工	28
В	エネルギー変換	23
С	生物育成	9
D	情報	27
	計	87

	○ ディジタル作品は、栽培記録等を取り扱うことで、指導に流れができる。 ○ 1年時に生物育成の基礎を学ぶことで、2年生ですぐ栽培にとりかかることができる。
特徴	△ 内容が1・2年及び2・3年でまたがっているため、意欲を継続させながら指導するのは難しい。△ 生物育成の内容の履修時間が、やや少なくなってしまう。△ 生物育成やエネルギー変換においては、理科などの関連内容の履修時期とずれてしまう。

□○ 1年時の夏季休業前に情報モラルを含めたパソコンの利用について学習できる。

3年間を見通した平成22年度以降の入学生の全体的な指導計画 (例5)

学 年	月	4	5		6		7		9		10			11		12		1		2		3	
#	時間	1 2 3	3 4 5	6	7 8 9	10	11 12	13 14	<u>4 15 1</u>	6	17 18	19 20	21	<u> 22 23 </u>	24	25 26	27 2	<u> 28 29</u>	30	31 (32 3	34	35
1	題材	オーガイダンス 情報通信ネットワークと情報モラル 材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作																					
年	指導内容	$\begin{array}{c c} A & (1) \\ \hline P & (1) & P & (1) & P & (2) & P & (3) & P & (4) & (4) \\ \hline \end{array}$																					
2 年		エネルギー変換のしくみと保守点検 エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作																					
															• • •								
		生物育成に関する技術を利用した栽培(学校や地域の実態に合わせて10h程度)																					
		B(1)ア・イ・ウ(2)ア・イ																					
	指導内容	C (1) ア・イ (2) ア																					
3 年	題材	ディジタル	レ作品の設	計・制・	作	プロ	コグラム!	こよる詞	計測・制	御													
	指導内容	D (2) 7	ア・イ			D	(1) エ	(3)	ア・イ														

Α	材料と加工	28
В	エネルギー変換	25
С	生物育成	10
D	情報	24
	計	87

特徴

	1年時の夏李休茉丽に情報モラル	<i>ν</i> を含めたパソコンの利用について字習できる。
\cap	内容が学年をまたぐことがなく	単年度で指導内容をおさえることができる。

○ Fight テーとない、ここがは、、手手及と頂等内谷とのこんることができる。 ○ 天候や栽培する作物の条件から、実態に合わせて栽培時期をかえることができる。

△ 2年時を除き、4つの内容を順番に履修するため、指導に流れをつくるのが難しい面がある。

△ 3年時のディジタル作品の設計・制作での素材に学習の系統性をつなげるのが難しい。